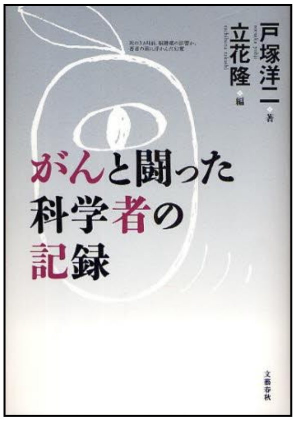
● 井上さんの書籍紹介

「がんと闘った科学者の記録」



戸塚洋二著　立花隆編
文藝春秋　2009年5月　初版

はじめに

「戸塚先生。お酒も大腸がんの危険因子の一つ言われていますが、お酒だけが原因ではないのです。あまりご自身を責めないで下さい。量子力学の根本原理が″確率論″であるように、がんの発生も因果律だけでは説明できず、確率的に起こるという面もあるのです。

治療より研究を優先されたという研究姿勢には、思わず涙しました。現在行われている T2K 実験が成功し、先生のお弟子さんがノーベル賞を受賞されることを楽しみにしています。先生が『まるで人ごとのように記録をつけていますが、研究者として一生を送って来た者の悲しい性です』と表現されている病状と、さらに、生と死に対する思いを冷静に記述されている姿に感動しました。

これまでノーベル賞、それも物理学賞を受けられる物理学者など、私からは遠い存在であると思っていましたが、先生も朝日新聞に連載されていた佐々木閑先生の「日々是修行」を読んでおられたのですね。本年 3 月で終わったのですが、私も楽しみにしていました。広島では土曜日の朝刊に載っていたのですよ。

失礼な言い方、お許し下さい。同じ理系の人間として、私も先生と同じような病態になれば、先生の姿勢を模範にして、クールに、がんに、生に、死に立ち向かいたい。私のような患者には難しいでしょうが。先生、今回は先生の著書を紹介させて下さい。」

著者紹介

1942 年静岡県生まれ。理学博士。65 年東大物理学科ご卒業。88 年東大宇宙線研究所教授に就任。98 年世界で初めて素粒子ニュートリノに質量があることを実験で証明した。それまで、質量ゼロであるとされていたニュートリノに重さがあったのである。これは 20 世紀の物理学の常識を覆す大発見であった。このときから、ノーベル賞が確実といわれるようになった。
2008 年 7 月 10 日午前 2 時逝去。66 歳。奇しくもこの日は、戸塚先生と立花隆氏の対談が連載された文藝春秋の発売日でもあった。

病歴など

2000 年 11 月	大腸がん手術。近傍のリンパ節 3 個に転移があり、stageⅢa。5 年生存率は、80%と言われる。
2004 年 2 月	左肺に転移（2 箇所）。手術。
2005 年 9 月	右肺に転移（10 個以上）。手術不能。化学療法（FOLFOX 療法）による平均余命は約 19 カ月であることを知る。仕事を優先し、治療を延期。
2006 年 3 月	高エネルギー加速器研究機構長を退任。
2006 年 4 月	化学療法を開始。
2007 年 8 月	ブログ A Few More Months を開始。
2007 年 11 月	予想平均生存期間 19 カ月をクリア。

2008 年 1 月　　肝臓に転移。2 月、骨に転移。3 月、脳に転移。
2008 年 4 月　　抗がん剤のオプションがなくなる。
2008 年 7 月 10 日没。化学療法を始めて 27 カ月目であった。

内容・感想・まとめ
　本書は、故戸塚洋二・東京大学特別栄誉教授が秘かにインターネットのブログページに書き綴っておられた闘病記録を、立花隆氏が読みやすいように編集したものである。2008 年 7 月 2 日が、最後のブログである。少し、抜粋する。

2007 年 8 月 25 日
　Heaven（天国）は本当にないのか。誰もが死に行くとき、それが真実かどうかを実体験します。私も最後の科学的作業としてそれを観察できるでしょう。残念なのは観察結果をあなたに伝えることが不可能なことです。

2008 年 2 月 10 日のブログは、本書の中で、私が幾度と読み返したところである。側にインターネットがある人は、http://fewmonths.exblog.jp/にアクセスしていただきたい。粗く、抜粋する。
『個体の死が恐ろしいのは、生物学的な生存本能があるからである、といくら割りきっても、死が恐ろしいことに変わりはありません。しかし、諦めの考えが一つ二つ思い浮かぶことはあります。
　私にとって、早い死といっても、健常者と比べて 10 年から 20 年の違いではないか。みなと一緒だ、恐れるほどのことはない。
　生前の世界、死後の世界の実存を信じない。なぜなら、宇宙が生まれ死んで行くのは科学的事実だから、無限の過去から無限の未来に続く状態など存在し得ない。
　宇宙や万物は、何もないところから生成し、そして、いずれは消滅・死を迎える。遠い未来の話だが、「自分の命が消滅した後でも世界は何事もなく進んでいく」が、決してそれが永遠に続くことはない。いずれは万物も死に絶えるのだから、恐れることはない。』

　本書は、「現代物理学に基づく死生学」とも言える。また、死にいく者の目線でみた死生学なのである。多くの人に読んでいただきたい。

会員　井上　林太郎